

戦略会議について

沖縄総合事務局では、本土復帰40周年の節目に、沖縄がアジアの一大交易・交流拠点を目指すため、県内外の産業界、有識者及び行政機関からなる「沖縄フロンティア戦略会議（座長・知念榮治 公益財団法人沖縄産業振興公社理事長）」を設置し、昨年12月から今年3月にかけて3回の委員会を開催しました。今般、「沖縄力」による成長戦略（10年後の沖縄）を論点整理として取りまとめました。

1 はじめに

（1）沖縄の持つ強み「沖縄力」

沖縄には、多様な「地域資源」(Diversity)とOIST等の「知の基盤」(Talent)、そして人・モノの流れの要石ともなり得る「地の利」(Place)があり、これらが沖縄の持つ強み「沖縄力」としました。

（2）戦略策定の必要性

「沖縄力」を踏まえ、これまでは、観光やITをリーディング産業と位置付け、「交流の拠点」の形成を戦略目標の柱としてきましたが、物流新時代を迎え、「交易の拠点」の形成をもう一つの目標に加えて取り組めば、沖縄には限らない未来とフロンティア（新開拓地）が広がっています。

新たに創設された国際物流特区制度を始め、「日本再生」のために用意されたあらゆる政策手段を最大限に活用し、10年後のあるべき姿を「戦略目標」として明示して取り組む必要があるとしました。

2 沖縄フロンティア戦略の目標

次に示す戦略目標を策定した上で、それ

ぞれの産業が相互にシナジー効果を発揮し、観光やIT、離島や北部圏域を含めた「攻めの農林水産業」及び沖縄型新産業が展開していくこと等を通じて、経済全体を飛躍的に成長させていくこととしました。

戦略目標1…加工流通など中継貿易タイプの新産業の創出

- ・eコマースセンター、リペアセンター化
- ・全国・アジアの食材のセントラルキッチン化

戦略目標2…グローバル・サプライチェーンを支える産業拠点の構築

- ・金型、計測機器などのコアパーツの製造センター化
- ・商品検査・検定センター化

戦略目標3…アジアと本土を惹きつける地域資源活用型新産業の創出

- ・6次産業化、植物工場の展開
- ・ウェルネス、感性・文化産業による「癒しの島」化
- ・健康・バイオ産業の研究・開発センター化

3 戦略の方向性

前記の戦略目標を踏まえ、以下の方向性が見られました。

一つ目に、国内外からの投資や技術を積極的に呼び込み、国内外からの来訪者を増やし、全国の産品を沖縄に集め、アジアのマーケットに送り出していくといった取組、「交易と交流の活性化」を進めること。

二つ目に、OISTの世界最先端の研究・教育環境を生かして、先進的なビジネスを生み出すため有為な「人」を呼び込み人材を育てる「仕組みと能力を発揮できる施設・

機器、支援等の環境整備を一層進めること。

三つ目に、地域資源を活用したビジネスの海外展開等を踏まえ、ターゲットとする市場を見据えて、「沖縄力」を発揮しつつ、ブランド化と販路拡大など「地域資源の活用」を積極的に進めること。

4 戦略目標を実現する4つの柱

（1）交易・交流拠点の基盤整備

国際物流拠点機能の整備、リゾート一体型国際見本市機能の整備等

（2）交易・交流拠点形成に向けた産業集積・投資促進等

沖縄における商社機能の展開、OISTを核とした知的・産業クラスターの推進等

（3）沖縄型新産業の創出

航空機整備事業の推進、沖縄型植物工場の展開、沖縄ウェルネス産業の推進等

（4）「沖縄力」を生かす人材の育成・確保

大学等における人材育成、実践型アジアビジネススクール等

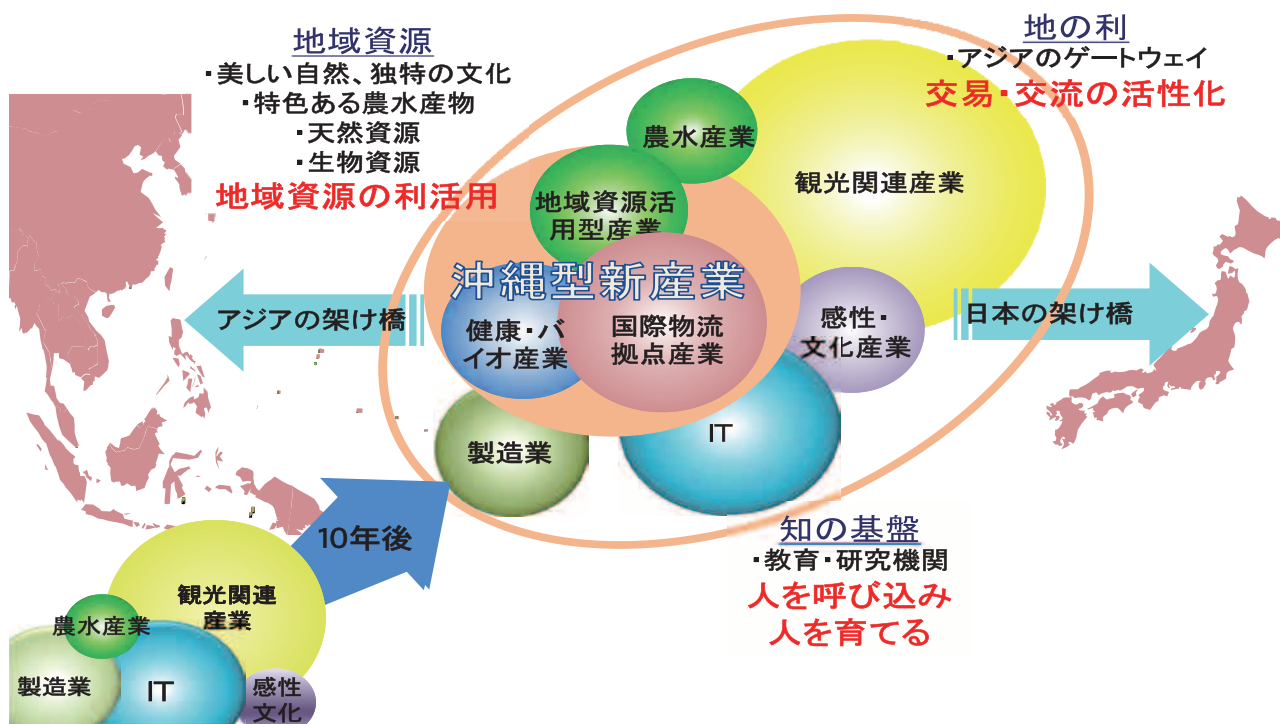
5 今後の議論に向けて

以上、沖縄が、アジアの一大交易・交流拠点となることを目指すならば、国、県・市町村はじめ関係する各主体が、ここで示した戦略目標を明確に見定め、スピード感をもって取り組み、随時フォローアップを行い、より良い展開方向を求めていくことが肝要と締めくくりました。

内閣府沖縄総合事務局総務部ホームページ
<http://www.ogb.go.jp/soumu/9327/frontier.html>

沖縄フロンティア

「沖縄力」による成長戦略イメージ（10年後）



「沖縄力」による成長戦略(10年後の沖縄)

